OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	TA (Teaching Assistant) の声　サイバーメディアフォーラム no.20　CALLシステム
Author(s)	田儀, 勇樹
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2020, 20, p. 33-33
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77284
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

CALL 教室での TA から得られた経験

田儀 勇樹 （言語文化研究科 言語文化専攻）

1. はじめに

本年度は前期に、火曜日の 1 限目と 4 限目にそれぞれ、総合英語(Liberal Arts & Sciences)と専門英語基礎の TA を担当させていただきました。CALL 教室で行われる講義の TA はこれまでに何度か担当させていただいておりますが、過去の経験とともに報告させていただきたいと思います。

2. 授業を円滑に進めるための補助役として

今回 TA を担当させていただいた授業では、受講している学生が、CaLabo を通して映像教材を視聴しながらメモをとり、その内容に関する設問を口頭で回答したり、エッセイ教材を CLE を通して提出するものでした。

業務内容は主に、授業開始前の音声設備の準備（特に動作確認も含めた、ハンドマイク・ピンマイクの準備）、学生の CALL 端末の操作でのトラブル（端末にログインができない、備え付けのヘッドフォンが聞こえない等）の対処、シラバスで指定された禁止行為の監視でした。

学生用端末の操作でのトラブルは、先述の通り、何度か CALL 教室での TA 経験もあり、トラブルが起きたときは比較的スムースに対応できました。学生からのトラブルとなると、何か機材の大きな不具合などを想定されるかもしれませんが、そういったトラブルに遭遇することはなく、むしろ端末の操作の仕方がわからないなどのものが多かったように思います。また、対処に慣れてくると、学生が何に困っていて、どうすれば解決できるのかを常に先読みしながら対処できるようになりました。これは非常に重要なことで、ここで TA がうまく対処できないと、受講生が授業に遅れをとってしまいます。そうならないためにも、普段から TA が、トラブルが起きるたびに、その内容と解決法を反芻して常に備えておくことがとても大事だと感じさせられました。

学生の補助を行う反面、シラバスで禁止されている行為を監視する際は、毅然とした態度で臨むことも必要になりました。CALL 教室という大きな教室での講義となると、講義を行いながら、教卓側から全てを監視し、把握しようとするのは、莫大な労力を必要とする上に、あまりにも非効率になってしまいます。この部分での非効率性や、労力を軽減することも TA としての重要な役割の一つではあります。しかしながら、ただ巡回するということではなく、万が一の見間違いがあるとその学生が被害を被ってしまいますので、見間違わないように慎重に行うことと、あらかじめ教卓側の位置から見えにくい場所を把握し、その部分を念頭に置きながら、注意深く監視するよう努めました。

3. 総括

TA とは文字通り、先生のアシスタントですから、あらかじめ先生から頂いた業務を忠実に行うことも大事なことだとは思います。ただそれに終始するのではなく、その業務に工夫を加えることで、講義を円滑に進められるようにするために、TA は何ができるかを常に考えながら行動することができるようになりました。将来私が教壇に立った際にもこの TA で得られた経験や教訓を生かしていきたいと考えております。